

麻生路郎★主幸

新刊大正十三年・通巻二百五十三號

川の木の雅の証

昭和二年四月十一日發行
發行所 東京市神田區
（電話一三一七）

四月號



Pensoj flugas trans la land - limon

No. 253





伊丹市 岩崎 柳路

領收證ヤミ料理とは書てなし
寒月の窓からシャンデリヤの如し
悪友と政令違反の扉を押し

カストリで酔うて宵寝の久し振り
九時出勤が八時出勤に春が来た
老眼鏡へ呆れた記事の新世紀

兵庫縣 戸倉 普天

女房づれさげた荷物の世帯じみ
柴刈りにさへ百圓の鎌が要り

尼崎市 水谷 鮎美

錢湯のゆげにわが子の背がたかし
蓄電池そんなに金が溜るかい
夜の雨うれしく起きた原稿紙

少年のランプ掃除に夢多し
散髪をしてなつかしく旧友おもふ
風の夜の意見が違ふ父と子と

ハワイ 古川 風竹

ワイキキ・ビーチで
ハワイの水ニホンの水へまたつゞき
男波女波青い眼の人魚が泳ぐ

一糸だけ纏うた裸婦ら亂れるる
空や水ジャパンの方角たすねられ

奈良縣 西垣 錦風

肺炎にて臥す
病み疲れ猫の重味も堪えられず

車中スリに合ふ

今日切れた定期も共にすられて居
買出しの米も赤帽背負わされ
改札をかざんで通る物を持ち

病んで聞くハタキの音も處女らしく
妾宅をつきとめ本部活氣づき

横濱市 福田 山雨樓

大阪は懐し輸出員ボタン
旭川 宮田 不二

編針を避けて吊皮一つ替へ
天氣豫報日本も廣い雨と雪

ダンスパーティー靴から僕に縁遠き
舞台中繼どこかで赤兒泣いてゐる
先生へ馳け寄る子等の眼が綺麗

大阪 市場 没食子

如才なうコミツションはとつてます
俺の肚も知らずつべこべ喋る也
おつちよこちよいだが金ばなれよし

子の日記金の要る事ばかり書き
男みたよな女が生理休暇とや
置炬燵煎じ藥の指圖をし

愛妻も四十我身は既に禿げ
野も山も小鳥も僕も春の呼吸

四十の詩寂しきものにばかり觸れ

名古屋 吉田 水車

停電をしほにお針は仕舞はれる
これやこの行くも歸へるも米をさげ

「しんせい」くじ政府いよいよ成り下り
焼け落ちし都大路に春の山

松本 石曾 根民郎

氣弱さをまもりぬく見榮をかしがり
妻の腫は家のあかりにたどへつゝ
けだものめと想ひに堪へて生きるすべ

東京の三星子、沙風君来る

友やがて山の美しさに疲れ
大阪 正本 水客

病院生活より
看護婦のふつと小女の聲になり
唯物論の本など借りて鉛をなめ

二ヶ月振りに起上ることを許されて
箸持てば箸の先なるお刺身よ
退院したら皆んなでゆこう春のなか

冬のバラ小女のといき吸ふごとし
物を持たねば来ないお見舞さみしかり

大阪 竹内 潮花

仕合な手相で靴の鉄を打ち
驛の灯へ捨ててる妓の巻煙草
生きてゐる姿すひがらなぞ拾ひ

麥喰べて馬は瓦の家に寝る
ホールの灯握手の袖の色が派手
痴話喧嘩女出てゆく音をたて

友訪へば火鉢の前のチャンチャンコ

奈良縣 尾崎 方正

お茶よりも労働講座聴く娘
焼跡をラツシユアワの脚速し
お休みを呉れと結婚楽しそう

花見酒一升五百五十圓

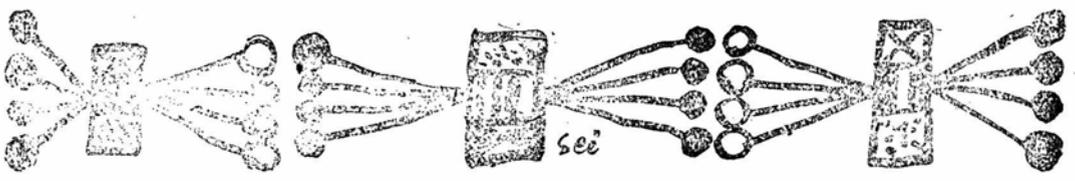
大阪府 西尾 葉

散髪屋で風呂屋で税金まだばやき
養子とわかつて話そらされる
嫂は一應芝居へ誘はれる

それからは圖書館へ通ふ意地をだし

下關 櫻川 不水

拳闘が今役に立つ衆議院
岡山縣 濱田 久米雄
ぜい竹の手で水ばなをこすり上げ



銀めしへしばらく話とだへたり
婦人会基金で餉の値が知られ
大阪 菊澤 小松 園

どの兒の寝顔もみんなわたしの方を向き
春風を心に聞いて手を見つめ
人の世に薄明りさす飲むほどに
猫の子も掌に乗るうちの可愛さよ
下ごころあつて話が途絶へ勝ち
四ツ辻を隔て、醫者と葬式屋
意氣天を衝き鹹になる小役人
飲み込みのよいのに賊もちと慌て
大阪 橋本 美奈子

病床吟
姫路 夷 一笑

賣食ひはいけるとこまでいくつもり
たちのきの豆の移植をこころみる
立話いやなやつだと思へども
遠き灯へ一人でかへる星あかり
當分はおちつくつもり湯殿建て
大牟田 高田 抱逸

新參の俺の腕にも所得税
輕々も電話で子供くれといふ
患ひの体へすまぬ家族給
大阪 木下 幽王

我はまだ逃げると云ふ術を知つてゐる
そこまでは姑の留守に讀みました
ペンキ塗立の如き女が潮歩する
水仙の白に吸はれた十九の心
三代目税々々に惱まされ
意見聞く耳へ氣になるヂヤズンダ
立身出世なんて金の嵩を指し
あげくの果は易者の餌となり
へっこみ思案君も矢張り非戦災
人が居らねばあの吸殻は拾ふどこ
鳥取市 中島 鐵洲

磁石落ちついて決断を待つ
鶏頭の花にヴァンプを想ふかな
姦通の文字が消えたらどうする氣
喫茶店キツス賣りますとは書けず
剃刀の光りが秋の身に迫る
里親に研いで貰つて二人剃り
銀行のドアを風が一才押し
蕪へナノと風に突き當り
鼻かんで貰つて敬老會に出る
早死のかしこ過ぎたも親のぐち
大阪 水谷 竹莊

善後策お茶と煙草のたえまなし
湯の宿はいゝなと思ふ亂れかご
もういやだ損だと部長世話が好き
湯の町の驛戀が降り戀が乗り
廣島 弘津 柳慶

初聲にはつとして肩の力抜け
商才もなく家賃を賣りつくし
別荘へ来て未亡人派手になり
足並の揃ふダンサーへ晝の月
大阪 稻葉 鳩花

長女誕生す
鳥取 杉谷 湖山

保險金まだ三十錢を掛けつゞけ
だしぬけに海の深さを子に聞かれ
魂を賣るにあらぬど誠らいぬ
宇部 國 弘 半 休

防波堤つくしの仲びる春であり
切り換へた頭の集ふ委員會
學期末希望が父を寒むがらせ
良い事をした筈だつた肖像画

幸不幸皆んな無理したランドセル
蘆屋 小澤 史葉

ガンジー暗殺
勅題春の山
死花は咲けどインドよどこへ行く
生産復興春の山も燃えてるよ
高文を取る氣課長の講義録
兵庫縣 小西 無鬼

責任を誰にか問はむヒステリー
みじめさは未だ軍服で通勤し
大金は持つておらない振りで乗り
歳末を酔うた姿のフト淋し
大阪 橋本 綠雨

老父母がいるばかりに雪を踏み
綱渡りの様に雪道汗をかき
劇薬もあつても良いと思ふ日も
停電よたのしい男の手を握り
三つ揃ばたんのあわぬふとり様
ゴム長でのそりくと農家が儲け
スタイルブツク職業にするつもり
金澤 安川 久留美

灯を消せば階級打破の手を握り
お妾もリツクサクを背負わされ
順調えつゞく感謝が氣の弱り
子の寝顔たのし五年後十年後
二三滴繪皿の紅も春の水
街録の龍頭蛇尾え湧く拍手
街録は忙中閑の人輪なり
街録へブレイキきかす係員
つなぎ船尻から煙立て、晝

松山 前田 伍健

大阪 橋本 綠雨

兵庫縣 小西 無鬼

金澤 安川 久留美

松山 前田 伍健

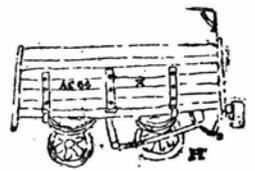
兵庫縣 小西 無鬼

兵庫縣 小西 無鬼



形見だと言ふを古着屋軽く聞き山口縣ル
聞き分けがよすぎて悲し夜の膳
またいつか白状すると笑つとき
休業の奥で飲んでる色眼鏡
夕焼に即興詩人の子と歸る
そろばんの汽車父さんをよけさせる
終電車まともな職の淋しい日
配給に並ぶ列から妻の聲大阪市千
俵そうなことを言ふても籤を買ひ
月給に分相應な豆ランプ
停電の街にランプ屋浮き上り
叱るまい僕の看護で瘦せた妻
罹災者と云ふ雜糞を肩にかけ愛媛縣脊
ゑん罪を着て女事務ひとり辭め
末の娘を嫁き遅らせて元地主
衆議決せず煙草切れちまひ
肉百匁絶えて久しき奢りなり
痔をいたわりつ百姓をABC兵庫縣自由朗
強盗の如く買出し捕えられ
リックサックを押えるの政治力
大臣の目に國民みんななまけ者
解散はやめるツ紙屑作るだけ
成行に委すと云ふは無力なり今治市文庫
持つ者の不安錠前二つかけ
間違ひを待つとる如し契約書
拜殿に錠前かける國となり

角曲る竹の長さへ氣をほぐし長野縣汗
ボロ服で我慢する子でまるい家
空腹の唇の厚さよ靴を捨て
滔々ど辯じ卵巢とつたどか
面白く儲け盆捨てがたし秋田縣夕
古着屋に貧しい貌を覚えられ
子も少し背負ひ巡察の目を脱れ
一と頃のバンドの穴を淋しがる
あ言えばかふいふ息子髭が伸び石川縣義
み佛の灯を消す團扇母が買ひ
鉛筆で書いても人のまことなら
眞険をやがて女給はもてあまし
雨の日はミシンで嫁ぐ氣の女房大阪市草
買出しの荷を憎んだり察したり
結婚はもうこりまりましたバーのぬし
めぐまれぬ掌だど見えた易者の燈
初風呂へ心新たな髭を剃り布施市醉
終點でチューブのやうに押出され
僕の不ボンどう〜妻がいて居る
新婚は鼠の音に又甘え
置人形主人は汽車で勤めてます東京都汐
野心作意外などこに知己が殖え
陽の中に必死な人の數動く
酒煙草女おのれへ虚勢張る愛媛縣曉
ざまみろと言はれると病んでゐる
湯たんばに温められる不倅
毒殺の記事さむ〜と炭もなし大阪市美朝
女王丸沈没
沈没の蘭屋の記事が笑はれず
喰ふだけでい〜とは何とおちよた
種蒔ただけでは済まぬ事を知り高槻市丁
能率を上げた積の盲目判



秋春筆雜

柳界寒唇錄 (一)

東野 大八

お手盛柳誌にも申す

現在の川柳界の一傾向としてお
びたいといお手製の柳誌が氾濫し
ている。高い印刷代と不意な紙
キ、ンをどう切り抜けて作るの
か、編輯人のなみなみならぬ苦心
がしのばれて正直なところ眼がし
らがあつくなる。だがひるがへつ
てきびしくこの實状を批判するの
を無理算段して出されればならぬ
かと疑いたくなる。インフレの渦
巻くこの住み難い世のくらしの底
で乏しい生活から進んで経済的
負担を背負いこみ多大の勢力を千
五百カローリのうちから消費す
る。柳誌を出すことがそんなに意
義があり、値打のあるものであら
うか、私は紙屑の様な柳誌を手
にしてよく考へこむ。

私にして言はせて貰うなら、柳
誌を出すほどの創作意欲があるな
ら、既に出ている人並な柳誌に
んごん投句すればよいし、リー
ダーを持つて自負したいなら新人
養成に努めるがよい、柳誌を出せ
ば全國から交換誌が得られる特典

があれば、柳誌をつくる金で他の
柳誌を購読すれば相手方も喜ぶ
し、第一たつぷり鑑賞の時間が持
てるはずだ。名を賣りたければこ
の間に御本人の實力と創意次第で
いくらでも世に出られるわけだ。
名を賣りたい欲と金と暇があるな
ら別だが、無理算段までしてそん
なことにアクセクする馬鹿さ加減
は止した方が賢明だ。とにかくこ
の私の話で俺の柳誌のことを言つ
ているんだな、とフンガイする人
があつたら、私はそんな風に感じ
させる柳誌の在り方を反省して貰
いたいと主張する。柳誌を出すの
が柳界發展のためだと、うそぶく
なら私はもう何人にも言へない、
その人の滅びる姿をその夕方には
眺める破目を感じるのみである。と
もあれこの話の結論は、その様な
尻の如き柳誌が存在する限り川柳
界に新風は起らないし、川柳人の
人柄は上がない、臭い溜池を引
つかき廻すだけの話である。眞實
の川柳愛とはこの様なものでな
く、もつときびしくもつと激しく
それらを押しつゝんでこゝろのひ
らやかなものであることを第一條
件としている。

豆秋君の獨創

安川 久留美

時代を諷刺することは川柳のも
つ一つの役目たる點誰しも思うで
あらう、然し、之を下手糞に狂句
がよつては、徳川時代の落首と異
ならず、文學という範圍から退け
ものとされるのではあるまいか、こ
のけじめに於て作句精神の良心的

さは云へど地位も名譽もあつても
 手みやげに子の齡を訊く苦勞性名古屋可
 紋付の風すれ違ふ金屏風 同
 怒つてた譯が判らぬ初對面 同
 村のバス今梅林をぬけたとこ島根縣遞 同
 戸締をして新妻の留守番か 同
 丹前に着替へてからの父となり 同
 平和そのまゝに初日は空を染め愛媛縣水 同
 子供だと侮つてゐて喋られる 同
 疑うて来た家ミシンのある暮し滋賀縣養 同
 共稼一つの櫛で朝を梳き 同
 履歷書に算盤出来ぬとは書けず松江快 同
 百圓を四つに折つたのわ昔 同
 空瓶を賣つて女は所帯染み大阪市克己 同
 世間体だけは我が子も叱つとく 同
 一筋の風にも冬の底を知り鳥取市穂波子 同
 泥棒か餓死か俵給憐れなり 同
 偏食の子へ食卓の無駄な湯氣長野縣柳 同
 溜涙男の子の意地頼母しい 同
 奥の間へ座れる程の無沙汰をし豊中市柳 同
 靴下のつぎ又つぎの上につぎ 同
 膝枕くぜつの後で灯がゆれる 同
 配給を知らず飯粒ふり落し 同
 心氣一轉民主主義の書をあさり大牟田稔 同
 昔ならくでの小宴會 同
 ミス・ポリス電話連絡ほめられる米澤市亂 同
 麻雀屋から我が家の方の火事へ駈け 同
 廣告をすれば案外甘い世さ岐阜市周 同
 物の値にしびれし心恐く見る 同
 母の愛身近く知つた手打そば島根縣米 同
 運命と知るや露骨な化粧に馴れ 同
 遮斷機にもうあの人が見えぬなり 同
 副業に俺も間屋へ巻き込む氣 同

口紅もあかく依頼心も尙つよく松江弧呂二
 持ちはこぶわすかの米に生きた頬 同
 赤ん坊で乗つてお米で降ろされる大阪市梅 同
 運命と片附けられた兄歸へる 同
 あきらめに似て松稔のゆるく落ち愛媛縣都 同
 山の池心の傷がうつりそう 同
 涙の半生など毒薬に近寄れず宇部市栗 同
 半處女を笑ふ氣にならずパーを出る 同
 家事審判妻の意見も聞く所愛媛縣辰 同
 これからの先の赤字は死え續く 同
 見物を映画に代へる宿の傘津山市茂 同
 招待券貰つたからと言ふ芝居 同
 別れて歸る夜更の霧に燈がにじむ島根縣柳 同
 千八百圓風に木の葉の散ることく 同
 夜業してゐるのに停電ようしゃま大阪市葉 同
 諦らめてあなたの幸を祈ります具塚一郎 同
 台所へ冷水摩擦順に起き東京都自樂人 同
 大雨に慌てる一萬圓也の家大牟田狂 同
 しみじみと同じ値段をきいてみる神戸市凡太郎 同
 注射する醫者は冗談云ひながら京都市巷 同
 モーニング年を聞かれて羨まれ西宮市登詩夫 同
 色々のボタンをつけて子のオーパー神戸市美代子 同
 友を問へば芋穴から顔を出し徳島縣夕 同
 新圓に縁遠ふすぎると子澤山大阪市松 同
 大宰府に遊ぶ

菅公のむかしむかしは梅が知り唐津久仁於
 唄になる松浦の濱の松と橋唐津水景
 驛員は一生水をまくつもり布施市千 同
 花の舞台お染狂ひの姿なり愛媛縣鶴 同
 人の見る花も山家にそつと咲き愛媛縣孤 同
 角帯を解いて久しい親の味茨城縣舞 同
 日溜りへ子の下駄いつか置きに石川縣夏 同
 ライターは石のへる程火は付かず吳市甦 同

動きが最も大切である、私は本誌
 に毎號須崎豆、秋氏の句に接し、特
 に機智的な諷刺に刺戟されて川
 柳味を味うことが出来る。

電柱の数はご巡査立つならん
 作者獨特の着想は所謂一刀兩斷
 のもとに時代を諷刺し祖上のメス
 殊に軍國を思ひせしむる。

國家警察や自治警察や之によ
 つて巡査募集は工具募集と共に目
 立つ、電柱の數との比喩はチト大
 袈裟のやうだが、こゝに川柳味の
 捨てがたい内容がふくまれている
 ことを見逃せない。

桐落葉ハラ／＼百圓札に見え

今の百圓札の有難味うすいのを
 上五文字に軽く風したる點、之れ
 も前句と同じく豆秋氏ならでは詠
 めない獨創的な感覺を表したも
 である、之らの句はカリに「巡
 査」とか「電柱」とか「百圓」と
 が、「落葉」とかいう課題吟から
 生れたものではなく靜かに現代の
 世相と動きを凝視したものである
 から些のイヤ味がない、個性着想
 である。川柳もいつ迄も課題目標
 をつけていては初心者が句作に
 落着きを見せる時が来て、親の脛
 をかがる子のやうに、「題」依頼
 主義となつて眞の個性吟が吐けぬ
 という破目ともならう。

(二、八)

健康と富

吉田水車

愈の深い話のやうだが實は私の
 失敗談です。國際貿易も本調子に

入れば何と申しても英語が花形と
 なりましよう。所で私が學校の時
 會話の期末試験で各自三分間位宛
 何か一席やらされた其時自分の番
 が来たので自信満々々々。何やらし
 やべつてよせよの？ それから
 冬休みに入る前とて先生(米國婦
 人)に「輝やかしい御健康と共に
 クリスマスをお祝し下さるやう祈
 ります」と言つてどうした事か先
 生は苦笑する皆も笑う、先生か
 らはワンスモアと言はれるので
 得意になつて繰り返へると又ドツ
 ト来た。勇をふるつて斷然もう一
 度やつたら又々大笑なものでも
 うさすがに目が見えぬ程まごつ
 いた。すると先生は「よろしいけれ
 共 健康 (HEALTH) が

富 (WEALTH) と間違つて居た
 から實におかしい。しかしよく注
 意せぬと大へな間違つた。こ
 とおしえられてやつと判つた。
 この間違いを念入りにも三回もや
 つてのけた此事はいつも英語とい
 えは思い出す。

品質優良

ペン先・針ピン・セムクリツプ

立川ペン先製作所

上野市



浅間の煙 (一)

沖野岩三郎

長い入浴

前年アメリカの新聞記者だといふスミスといふ夫人が、浅間山腹の私のコッテエジへ訪ねて来た。それは日本の神道についての話を聞かせるといふためであつた。

所用が終つてスミス女史は浅間を去る時、どこかに静かな温泉場があるならば、そこへ行つて原稿の整理をしたいから適當な旅館を紹介してほしいといふので、私は鹽原の柏屋旅館を紹介しておいた。

それから二週間後に鹽原へ行つて見ると、スミス女史は川に面した二階の一室に陣取つて、非常に満足してゐた。日本語の出来ない女史と、無類に外國語に不得手な私とが向ひ合つて、しばらく話してゐるうちに、ハウ・ロングタイム……と言つたので私はこの温泉は何年ほど前に発見されたのかと問うたのだと思つて、アバウト・ワンサウサンド・イヤアス……と當てすつぽうな返事をする、女史は目をまるくして私の顔を見つ

めた。少し變だと思つて問ひ返してみると、何とこの温泉に何時間浴つてゐればよいかといふのであつた。如何に名高い鹽原の温泉でも一千年間の長い年月浴つてゐては骨も肉もどろけてしまふであらう。その時スミス女史は私の顔をにらむやうにして、「私は二週間滞在するつもりです。その間にどうして一千年間お湯に浴られませうか。」

スパンを食ふ

成田の不動へ講演に行つた時であつた。友人の水野葉舟君が、「沖野君、三里塚にホウムス・パンの製造所があるから、行かうぢやないか。」と言つた。少し空腹を感じてゐた私は、パンと聞いて直ちに同行を承諾した。そして田舎道を歩いて三里塚に着くと、水野君は私を一軒のみすぼらしい家の中に案内した。ホウムス・パンと聞いた私は、家庭用のパンを食はしてくれるのだと思ひ込んでゐたが、何とそこには一人の女が茶色の

手糸のやうなもので、ガシヤン、ガシヤンと機を織つてゐた。「何だ、ホウム・スパンか。」と私がつぶやいた時、水野君は、「さうださうだ、ホウム・スパンだ。ホウムス・パンではなかつた。」と言つて頭をかけた。多分水野君は僕を正確な發音をする英語學者だとも思つてゐたのであらう。

その後幾年か経つた後、親類の男がホウム・スパンの洋服地を送つてくれたので、私はそれを背廣に仕立てて着てゐたが、信州浅間山の中腹へ疎開した後、食糧に困つてその背廣を米二斗餅一白と物交にして食べてしまつた。その時私はたしかにホウムス・パンを腹一ぱい食つたのであつた。

實費だけ

アメリカのロスアンゼルスに滞在してゐた時のことである。英領カナダのボウエンアイランドで開催する汎太平洋青年會で、日本の事情を講演してくれないか、實費だけはこちらで受け持つ、と言つて来た。どうせカナダへ行くつもりであつたから、そこまで汽車賃向ふ持ちは有りがたいと喜び勇んで、一晝夜の長い汽車の旅をへて、翌日バ

ンクウバに着きそこから渡し舟に乗つてボウエンアイランドに行つて、講演を終つた後、幹事から金一封をもらつた。バンクウバへ歸つて来て聞いてみると、申込みは何と金二圓五十錢であつた。實費とはバンクウバからボウエンアイランドに渡る舟賃であつた。

風の別荘

バンクウバの郊外にある高さ四千尺のグラウス山へ登つた時のことである。山上にグラウス・マウンテン・シヤレといふ風雅な木造建築があつたので、私は Chalet といふフランス語の看板を指さしながらシヤレとは日本語の何といふ意味かと案内してくれたドクタア下高原君にたづねると、ドクタアはポケットから佛英辭典を取り出して、「シヤレとは風の別荘だ。」と答へた。高い山の上の吹きさらしに建つてゐるから風の別荘かなあ、と思ひながら失敬にもドクタアの手を持つてゐるその袖珍辭書のをぞき込むと、辭書にはスキスの牧人の住む山小屋風の別荘、と書いてある。その山小屋の文字までが、前の行で次の行が、風

ココロ
ツツ
ツツ
ツツ

頭腦覺醒に
(公定醫藥品・プロバミン錠)

ゼドリン 錠

★睡氣を防止し
★頭を明決にす

柳人交歡	愛媛縣上浮穴郡 小田町役場前	高野一句	大阪市西成區松通 九丁目二十二番地	土井文蝶	大阪府泉北郡高石町 北五〇六	友淵貴山	日本樂器株式會社 大阪支店	村松夢裡	大阪市南區 心齋橋筋二丁目
------	-------------------	------	----------------------	------	-------------------	------	------------------	------	------------------



島根柳人記

尼 緑之助

大正の末期から昭和の十四、五年頃までの島根縣柳境は活潑を極め量に於ては全國で有数のものであつた。その中心たる松江市には番傘、川雜の兩六グループの外に起伏はあつたが相當数の諸派が入り亂れ、雜誌も色々出てにぎやかであつたし、川柳人の往來も頻繁であつた。番傘では母里、直江、莊原に、川雜では出雲、松江、川柳人では大社町に各々支部を形成し、其他にも各種雑多な集團の浮沈があつた。それも戦争中途から鳴りをひそめて敗戦後いち早く復活の緒に就いたのは川雜の松江、出雲の兩支部で、其他は此處に紹介する程の域に達していないのは心細い。前口上が大變長引いたが、現に活躍している人々の横顔をザツクパランに素描しよう。

明治の末期から松陽新報(現島根新聞)の柳境に據つて地方開發の貢獻をした長老米村あん馬氏は一昨年だつたか新聞社を辭し、松江市雜賀町に老後の余生を自適されてゐる。氏は余り句會には顔出しはされぬが、雜誌「柳城」には相變らず筆硯にもを言はせ、そ

の淡々たる人間味と共に圓熟洗練の至境を見せられている。

次に古い人に青砥可明氏があら且ては不二綱と號し川雜初期には同人格(?)だつたかと思ふが、番傘の同人で、松江番傘では長い間の指揮官であつた。濃厚篤實型でものやわらかい人當りは句風にもよく表現され、大てい引つ込んで了つた番傘の中で孤軍奮闘の角好だ。番傘派ではやはり松江市の黒目大鳥氏がれり強いところを見せている。又柴田午朗氏は終戦前後縣農業會長をやつていたが追放關係で地方檜舞台から引込んだのは惜しい。地方の名門で、インテリだが番傘派に屬すとは變態だと評した松丘町二氏の言を思い出す。この人も番傘誌上のみで地方的にはあまり動いていない。

我、川柳雜誌社松江支部を固め「柳城」に據る現役人を見渡すと先づ第一番に豪傑廣江天痴人君を挙げればならぬ。ソボク、ライラク、エウホウ、ごの言葉もあてはまるがこれで人情味があふれているのだから川柳人たる者惚れざるを得ない。自由律もとり入れて進歩的で飾り氣のない、そして力のある句をもする同君の存在は大きい。勝谷山川兒君は松江市役所のチャキ、だ。昨年は抜かれて厚生課長に榮進したが、その仕事ぶりも積極的で若い卒直性が買われていたようだ。句にもその人柄が遺憾なく發揮されている。市役所川柳會を指導している。又、同

じ市役所にいる堀谷竜人君は若い柳歴は古い。黙々として仕事に身を入れてゐるが柳境にはやゝ消極的だ。其の外「柳城」には老練安達尙民、氣概岡崎祥月、新鋭本城快哉、梅本登美也、吉岡逸見、

百万圓 (はがき野郎)

富士野 鞍馬

蕪夕起子嬢は、昨年の所得百万圓といふ。同嬢は私の養女と京都府二高女の同窓であるので、いつそ感服してゐる。女では今映畫女優が一番であるらしく、アメリカでも女の最高所得者はテイアナ・ダービー嬢で、二十六万余ドルと書いてゐる。日本貨に直すと四千万圓となり、夕起子嬢の四十倍にあたる。これ等の人はこの収入額を目ざしての藝術でなく、藝術のよさが社會に高價に買われたのである。川柳家に川柳藝術で百万圓所得の人が出ないとも限らない。然し百万圓欲しいさういふのではダメであつて、只管藝術の勉強の結果である。百万圓が目標なら「しんせい」五十本買へばよい。

清水市。

古川柳研究家

杉本美城、村上四希、村松久尾の諸君が活躍してゐる。最後に「柳城」の大番頭山根龜人君の活動は目ざましい。軍隊から戻つて來ると縣廳のお役人さんになつたが昨年の夏山根書房を開き川柳の店と

銘打つて趣味と取り組んだ實業界に勇敢な轉進をした男、清新な感覺と川柳への情熱、加うるに圓満な人柄が「柳城」を大きく育て、地方柳境をグン／＼引つぱつて行く同君の實踐力は正に島根縣のホープと言つて過言でない。

それから出雲市へ舞台を廻すと、こゝでは且て尾添雷相、澄田羅門等の好作家を出しながら今では取り立て、ペンにする程の人がゐない事を残念に思う。誌上では余り句を發表しないが出雲支部の句會を宛に角戦争中にも私をリリーフし續け通させた熱心家に森山さわだ君がある。明け放しの天真爛漫居士、貧乏を苦にしない人情家の同君は散髪屋さんでお酒も相當いける。街の人氣男である。曾田大朗君は労働監督基準局とかいう所のお役人でさわだ君と共に「柳城」の同人だが近頃句會に顔をあまり出さない。阿川笑朗君は昨年の暮れに滿洲から歸つたばかり、市役所土木課の技術者梅野悦朗君と共に出雲支部を固めてくれる人々だ。

倍、紙數にも限りがあるので、早く復活の望ましい人々に、松江市では多久和喋朗、復員したばかりの津川紫吻、新興商會社をやつてゐる奥村正治の諸君、又、直江、莊原、田儀あたりの作家群、或は井上銀花坊の流れを汲む大社町の人々よ、敗戦後三年も経つた昔の島根柳境を再興しようではないか、更に新しいほんとうの、

生命ある川柳塔を打ち建てようではないか。

(附記)

見方とか、活動狀況に就いての誤りがないとも限らぬが不惡御諒承を得たい。又私も出雲市にあつてごうにか動いてゐる一人だが、各位の御想像に一任申上げる。

清談・商談
お待合せに

喫
茶
みどり

みどりでの商談
運が向いて來る
上六交又點西北角

安産のために

ワダカルシューム錠



いのちある句を創れ

投稿清規 確 用紙は原稿用紙 文字を正 開催月日及場所記入 締切は毎月廿五日 投稿先本社

本社二月例会 (大阪)

於一運寺 二二、二、一

寒い日だったが、部屋一ぱいに作句に熱心な人達が集まった。段々人心のおちつきを反映して来たことばうれしい。鮎美氏の「前月の句會の句に就いて」と云ふ講評があつた。

出席者 路郎・六文・祭人・千峰・宇三郎・露滴庵・素歩・白兔・竹林・風路 鮎美・栗木・鳥莊・茂・勢三・喜代志 翠光・太路・克己・醉月・潮人・治男 嘉夫・梅里・圭井堂・栗竹莊・没食子 香林・柴香・遠見路・鳩花・美朝・里十九 史葉・三憲・潮花・松代・元之助の諸氏

兼題「エキストラ」 麻生路郎選

新威の近く氣にするエキストラ 素歩 エキストラ惜し夜装を脱がされる 倍二 もう一べん出るエキストラ寒うなる 栗 一國一城の主となつたエキストラ 竹莊 エキストラボヤけた顔にさらされる う冠り エキストラ彼れで女房もあるのなり 黙平 殺されて空を見てるエキストラ 勢三 エキストラスターのくせを知つてる 竹莊 エキストラあれが俺だとエキストラ 圭井堂 試寫會にあれが俺だとエキストラ 露滴庵 エキストラ下駄に履きかへせられる 光 エキストラ只三分の立ち廻り 翠光 エキストラ科白のないを淋しがり 文蝶 エキストラ重たい物を押さされる 鷗滴庵 エキストラ慣れた時分に誠になり 梅里 文化映畫社長夫人も狩り出され 普天 下加茂とのエキストラは言はず

エキストラ様我をしてから来なくせり エキストラわい／＼騒ぐだけの役 裏道のあるき疲れたエキストラ 人権を無視されてるエキストラ エキストラ歩いただけで金になり エキストラもいいなと思ふ春の丘 はかまはなつた五分のエキストラ 若玉に川へ飛び込むエキストラ 欲動をしてでも行く氣エキストラ 明日はもう斬られようかエキストラ

兼題「用心棒」 須崎豆秋選

開店へ用心棒も客でくる 鮎美 用心棒燗の酒に酔つてゐる 鳥莊 刺青を一寸覗かす用心棒 黙平 俺の出る幕が来たなと用心棒 千峰 そのステツプに用心棒とは見え 水客 用心棒一升瓶を抱ききれする 栗 酒の座に用心棒のかくし藝 鮎美 娘はんの護衛わしがいく／＼ 梅里 用心棒コーヒ一杯あてがわれ 喜代志 當り鏡お供を連れてとりに来る 露滴庵 用心棒宿では別の部屋に寝る 普天 美人座で用心棒はほつとかれ 祭人 ほれつきへ當分通ふ用心棒 三憲 柔道五段閑屋のカバン持たされる 圭井堂 親分の肩から覗む用心棒 白兔 仰山にほうたいたしての用心棒 水客 用心棒とは定期券書いてなし 治男 いとさんの辭を知つてる用心棒 翠光 用心棒一べん踊つてみたくなり 栗木 用心棒小鳥の餌を替へさすれ 梅里 さてとなると口ほどにない用心棒 香林 社會面だけ讀んでゐる用心棒 喜代志 二人前よばれて歸る用心棒 潮人 用心棒茶盤の様な下駄を履き 里十九 用心棒そのステツキも知れやせ 圭井堂 大股で續くは用心棒と云われ 治男 用心棒晝はひまなりれてしまひ 太路 用心棒袴のたけが短かすぎ 水客 用心棒タマも三百突くのなり 鮎美 月あかり用心棒も愚痴になり 豆秋 用心棒マダムにばかりとばされる

兼題「守衛」 上田翠光選

人通り絶えて守衛は月へ座し 守衛さんに女を見すかされ 闇會社守衛に別働隊うけつけ 誘惑に負けぬ守衛の氣が尖り 給心もあつて守衛は額を掛け 諦観の型で守衛は欠伸する 裏門の守衛萬年青の世話もする 圖書館の守衛少しは讀んだ顔 投キツス若い守衛は横を向き 赤旗へ守衛門たしかめ 赤はもう守衛の足に陽がのびて 句を掛けて話の分る守衛さん 石炭を踏まぬ守衛が見出され 御方の父も守衛と云ふ縁談

兼題「剃刀」 西尾 栗選

剃刀で死ねると且那おどかされ 今といた剃刀四五人子を散らし 行先も云はず剃刀あてで出る 剃刀の置場に困る子澤山 全快の剃刀あはす日向縁 親方の剃刀になり寝てしまひ 剃刀の渾名もさびし節を賣 日曜日女房の使ふ剃刀を研ぎ 惚れてゐる男剃刀とがされる 剃刀へ信じ切つてる腫をつむり 剃刀をだまつて使ふ十八九 剃刀を手に僕はまだこれから 素人へ借す剃刀の刃を合はし 剃刀とバリカンに馴れ子澤山 剃刀にいつしか父に似た眉毛 銭湯の剃刀ヌツツと立つて居る 剃刀に百面相をさせられる 剃刀を逆手に持つたところで暮 老母の眉剃つてとほし呼吸によれ 剃刀沙汰の女が通る春の雨 療養のある日腎酸カリ思ふ 毒薬のきれいな色に魅せられる 文蝶 文蝶

阪田膽寫版

大坂市北區芝田町二五

株式會社 阪田商會

電話 一六九三番

本社三月例会

於一運寺 七日午後一時

二月末に案内狀を發送したのに、通信ストに引つかつた人が、句會案内を朝の十時半にうけたつた人と、前日の夕刊で知つた人だけだつたので集りが悪かつた。兼題の選者からして来なかつた。しかし鮎美氏の句評、路郎師の一時問余の熱辯で會そのものは、白熱して愉快だつた。(幹事)

毒薬をどこかにスパイ持つている 毒薬を笑ひ見事に腹を切り 毒薬を新聞記者は問ひ正し 借財がかさみ毒薬飲むつもり 毒薬を持つて家出の三日間 沈黙の中に毒薬見つめられ これが毒薬か白い粉を見る 毒薬は小さいビンに入れてあり 毒薬を呑ませる方は水呑み 薬局に毒薬がある高いとこ 毒盛つてギャング世相を笑ひ 毒薬は別な置場へ錠をかけ 捨てられる換毒薬秘めて居る 毒薬を持つて列車へ追はれる身 味けなき世を毒薬で清算し 毒薬を計る手附きも藥劑師 没食子

久賀支部新春川柳大會

一月二十日 於 路三居

春日遅々禿と禿とが碁を圍み 稔坊
久し振り頭をなぞてお互だ 來駕
カモジ禿昔はソレと惚げれて 天満里

雲・喧嘩・同情 於 路三居

富士山の繪には子供も雲をかき 路三
失戀は雲の行衛をジツト見る 同
飛行機の音あの雲がこの雲か 稔坊
唄ふ子と夕焼雲へ鐘がなり 三休
木戸口の喧嘩らしいえ俵び上り 猪太郎
意地と意地門の外まで共に出る 天満里
喧嘩にも力の入らぬ昨日今日 三休
喧嘩した記憶の友と久しぶり 路三
片袖を千切られ喧嘩の子が歸り 稔坊
子のケンカうちの子ははかりなり 三休
宵寒へフト目をそらす仲直り 阿房
手紙では同情など書いてなし 天満里
同情はするが私も食いかれる 猪太郎
同情でするのではない義捐金 三休
フト思ふ押麥孤兒に似た姿 稔坊
慈善鍋聲をからしてあるばかり 路三
練炭の穴も数へた待ちぼうけ 三人

旭川支部句會

二月十五日・於 南無三居

煙・ラジオ・闇・眼
面倒な話タバコの輪を見つめ 奇代史
火葬場の煙り眺めして悟られず 南無三
家中を煙に染し新世帯 奇代史
當直のラジオやたらに大きくし 奇代史
本意をも闇の仲間と今日も生き 南無三
唇の紅さが闇の女です 奇代史
夜の女サラーマンへ目もくさず 新也
焼鳥のれん俺には目の毒さ 雪峰

岡山支部句會

十二月二十日・於 久米雄居

極楽はたゞ幻燈で見たばかり 麥笛
宵寒を惜しめと映畫館がはね 久米雄
極楽・映畫・年の暮
愚痴・炭俵・男・秋

映畫から出て現貨へ深呼吸 百文
映畫館近くすりすりの眼を感じ 久米雄
安かつた足袋が冷たい年の暮 久米雄
年の暮ごもりながく云えぬなり 久米雄
新妻へ隠し終わらせぬ年の暮 清風
姉さんを今年も置いて年は暮れ 同
今はばや愚痴ではなぬ愚痴手だて 牛仙
さびしきは醉はおほほへ愚痴を持ち 久米雄
聞き慣れた愚痴(縫)手のよく動き 凡羊
炭俵師走の中の風に燃え 一米雄
丸公がごろのころのうきが炭俵 一米雄
芋に明け芋に暮れるも秋のこと 春葉
雨

一月九日・於 久米雄居

強情・風・餅・泥棒
強情を張つて出て来て雨に濡れ 運平
強情を通した悔いのありはあり 久米雄
たゞ一つ風が小山の上にあり 凡羊
寒風へさからつて行く風ささし 凡羊
風あげに出たきりという男の子 久米雄
元日へ餅がとけるの聲で起き 久米雄
強ひられた餅は一應眺められ 久米雄
餅の湯氣餅が食へない餅を思ひ 同
餅を焼き出して上戸は腰を上げ 同
泥棒の中の一人にくじやみが出 久米雄
泥棒も此の寒空に風邪をはき 正洲
泥棒に見せてはならぬものはかり 久米雄

一月十七日・於 禁酒會館

元且を迎えて・經驗・時計・指
お目出度う旗見當らぬ街を行く 聰指
門松をあゝこんなのあつたのか 通常
混濁の世を乗り切つてゆく覺悟 久米雄
お元日年とるだけのものとなり 久米雄
あてもなく唯正月の着物で出 通常
嘘の世へ何かを祈りたたい氣持 久米雄
盗人が逃げた窓から年が明け 七面山
損をせぬ程の正直者として 風來子
何事も經驗ですと落ぶるより 通常
經驗を問われぬ求人欄をよる 夢夢
經驗のあるのはにやりするはかり 北星
立案は前のを少し變えただけ 久米雄
どの音がほんとの音か時計店 風來子
妻の留守時計の要らぬ暮しする 同
正確な時計を持つてくたびれる 北星
長話時計が鳴つてけりがつき 七面山
電氣時計がくると動き汽車が出る 通常

腕時計ガラスは割れたまま縁ぎ 同
三面(噂)の噂になつた男 北星
看取へ噂どりの活字なり 久米雄
噂程美しくない從妹くる 一歩
指の怪我母真先に見替める 聰夢
春霞指さす鳥の名を覺え 久米雄

竹莊さんへ(お返事)

水谷 鮎美

前月號であなたの身にある温情を頂 千うれしくおもつて居ります。申さるゝ
通り路郎先生の還曆祝の句會席上では川
雜・川柳座大合同の演劇班を組んで公演
致しまして。豆秋、里十九兩兄は勿論
です。演劇事務所はあなたのお宅に置いて
頂き精進せらるゝようお願ひ申します。
報恩の道をゆくわらなれば柳人諸彦
にひろく御後援をして頂きまじよう。な
ほ具体的な會合は明日からでも待ちまし
よう。

こんなに書いてあると草朝さん、妄夢
さん、生々庵氏、陶王氏、香林さん、翠
光氏、紫香、潮花さんと粒が揃つてきま
すれ。葉平氏もある亞鈍さんもある。白
柳子君が笑つてゐます。名古屋に水車
氏、徳島に夕鐘君、極樂にかほるさんが
おりますよ。脚本はお互ひに熱心に削ぎ
つゞけまじよう。劇團『あゆ』を持つ私
のことです。皆さん慈光を浴びてやり遂
げまじよう。
竹莊さんあなたのグループの主演は太
鼓判ですよ。

社のサービスポ

路郎主幹の揮毫作品左の小規に
よつて同好の士にお頒ちいたしま
す。

短冊 一葉 七五四
同 (新年四季) 五葉 三〇〇圓
色紙 一葉 一〇〇圓

同 (新年四季) 五葉 四五〇圓
軸・類・小物表装なし) 五〇〇圓以上
先生の作品で御希望の句があれば御指
定願ひます。申込みと同時に半金お届
け願ひます。揮毫作品が出来たらお知
らせいたします。

民主日本川柳大會

日時 四月廿四日 十二時半
會場 岡山市奉還町
廣鐵岡山管理部第五鐵道寮
兼題 「太陽」麻生路郎先生選
「靜脈」福田山雨樓選
「他人」濱田久米雄選
「奇蹟」丸山弓削平選
「寶くじ」鈴木九坡選
講演 「民主日本と川柳」
麻生路郎先生
會費 十圓
記念撮影 披講前に行う
賞品 兼席題を通じ天位呈賞
投句 四月廿二日迄に
岡山市中之町四九 鈴木九坡宛
宿泊 前以て九坡まで
共催 岡山管理部文化サークル
川雜 岡山支部
後援 川柳雜誌社

備前支部創立句會

日時 四月廿四日 午後六時
會場 岡山縣和氣郡英保村福壽
兼題 濱田久米雄居
門出 路郎先生選
村芝居 久米雄選
眞村心 風來子選
供出 清風選
ゴムマリ 九坡選
講演 「農村文化と川柳」路郎先生
會費 十圓
賞品 兼席題を通じ天位
投句 四月廿二日まで會場宛
主催 川柳雜誌社備前支部



六號室

いゝ映画がないので見なくなつたのでもありますが、永い間ムービーを見ない。最近、P.O.Eが讀んでゐたロスト・ウキークエンドといふシナリオを編輯のひまに覗いたところが、酔ッ拂ひ心理を實に巧みに描出してゐるので、急に酒がのみたくなり柳友が來たらお茶代りに一緒に嘗めやうと思つてゐた、とつときのビールを女房に命じて持つて來させた。ところがビール抜きがあるとか無いとか云つてゐるうちに編輯の疲れと、讀書の疲れが堰をきつたやうに出たものと見えて、眠つてしまつた。そして翌朝になつて、咽喉をうるほしたが、もうロスト・ウキークエンドの味は出なかつた。それはあまりにも少量だつたからであらう。どこやらでやつてゐると聞いたので、そのうちに出かけて気分だけでも味つて來やうと思つてゐるうちに、大和の山房へ出かけてしまつた。そこで最近柳路君が送つて呉れたザ・スリーピング・スフィンクスと云ふ小説を春雨を聴きながら讀み耽つた。翌日は南海の句會があるので急いで大阪へ舞ひ戻つた。そして又編輯に没頭してゐる。こんな調子でロスト・ウキークエンドもいつ見られるか判らない。

コがないのは工場に電力が來ないのと一緒だ。イヤ、それ以上だ。それにつけてもモノトリー・ビュローのやり方ツツて全くなつてゐないのに呆れてゐる。ラジオをお先棒に使つて毎日のやうに、私設専賣局のタバコは非衛生的だと罵らしてゐる。非衛生的なタバコを喫はねばならぬやうにしたのは一体誰だ。放送局にしても、タバコの煙りに巻かれてゐるのではなからぬまい。近ごろではカタバカリの配給、しかもゴミのやうな、辛くて舌をさすタバコだ。私設の方が品も幾らかましだし、値段も

募 集

課題吟募集

役人(十句) 尼 緑之助選
(五月五日締切)
白米(十句) 濱田久米雄選
(六月五日締切)

每號募集

近作柳樽(雜吟廿句) 麻生路郎選
川柳塔(雜詠) 麻生路郎選
文章(評論・研究・感想其他)

投稿規定

▲投句は各種必ず別紙に認め、住所氏名雅號を明記する事。
▼「近作柳樽」は一般作家の雜吟を募る。
▲「川柳塔」への投句は不朽洞會員に限る。

安い。それを罵るなんざア猿の尻突いだ。いゝものを安く賣るより手はない筈だ。一寸公憤を漏らししておく。
雜誌は每號好評だ。編輯は骨は

折れるが張合はある。ボツ／＼古い讀者が戻つて來てくれる。ハワイへも雜誌が行くやうになつた。ありがたいことだ。本誌にはいろいろの讀物を取り入れた。富士野鞍馬氏の「文日堂礫川」や、僕の「續川柳講座」は實になる讀物として食膳にのぼして貰へたらうし、沖野岩三郎氏の「淺間の煙」や小畑自由朗氏の「掌篋川柳」などは軽い飲物として味つていただけやう。その外に、尼緑之助氏の「鳥根柳人記」、安川久留美氏の「柳界寒唇録」、東野大八氏の「豆秋君の獨創」等々の健筆がある。僕も埋艸に漫才を書いた。笑讀を乞ふ。

僕は四月の下旬、旅に出るので本誌を送り出したころには五月號の編輯を終えて印刷屋へ送りこまねばならない。忙しい限りだ。▼小著「新川柳講座」二〇〇ページ以上上校正した。二〇〇ページ以上になるだらうと思つてゐる。校正が四月の下旬位には片附いたらうが、「川柳」掲載したもので、大體「順序」變更したので改めて讀み直していただきたい。今から御聲援を願つておく。

それが、柳人交歡廣告をまだ申込まれてゐない方は「日本川柳人名簿」の礎稿にしたいと思つてゐるので是非一稿でもお願ひしたい。

▼本誌から定價を改正した。御諒承を請ふ。(路)

動 靜

▼本社三月例会が七日の午後一時から一運寺で開催された。全選のストがたつた、午前十時半頃に辛じて案内が届いた人たちが、前日の大阪新聞の夕刊を見た人だけが集つた。▼川柳濱濱支部では十四日午後一時から諏訪森長徳寺で開催▼通信病院川柳會は十七日午

後二時から三階圖書室で開催▼扶桑金屬文化部川柳會は十八日午後四時から明徳寺で開催▼南海電鐵川柳會は廿二日午後四時開催、以上何れも路郎主幹出席▼千石莊川柳會は廿七日午後一時から開催、路郎主幹が出席される筈▼川柳「烏ヶ辻」二月號が二十九日發行された▼既報の眞珠洞氏還曆記念出版現代川柳著名作家隨筆集「泉」が二月五日に刊行された。B版二五三頁、非賣品、編者大神梨雨江氏が文字通りの東奔西走に據る努力の結實であるだけに、この種の出版物として意義がある好讀物であつた。多少殘部があるとのこと故希望者仁願岡市東唐人町の編者宛に懇願したい▼民十二時半川柳大會が四月廿四日午後主日本川柳大會が四月廿四日午後山管理第五鐵道寮で開催される(別項廣告参照)▼川柳雜誌社備前支部創立句會が四月廿四日午後六時から岡山縣和氣郡英保村福満、濱田久米雄居で開催される(廣告参照)▼「川柳文化」別府では四月十八日午後一時から弓ヶ濱十七齊藤清幸居で開催▼ふあう



B列5號 毎月一回一日發行

川柳雜誌 第三號

一册 金十五圓 (送料五拾錢)

半ヶ年概算 金九三圓
一ヶ年概算 金一八六圓

昭和廿三年三月廿五日印刷
昭和廿三年四月一日發行

大阪市住吉區萬代四丁目二五番地
編輯兼發行人 麻生 幸二郎
行印刷人 大原市住吉區萬代四丁目二五番地

發行所 **川柳雜誌社**
電話口番 大阪七〇五五〇

劃期的新治療劑

結核 ネオハツモン

黒田製藥株式會社

「と」二百號記念神戸市春の文藝祭川柳大會が四月三日午前十時から諏訪山會館で開催される▼「川柳界」春季句會が四月三日の正午から東京都台東區入谷町小野照崎神社で開かれる。(二五頁三段目へ續く)